



ひまわり通信

No.00708. 2025.3.13(木)

健康寿命から貢献寿命へ

健康の宝石「クロスタニン」の登場 (田中美穂の「生きる法則」 鶴蒔靖夫 著)

●クロスタニンの登場

「日健総本社はクロスタニンとドナリエラを二大基礎として、新製品の研究を続けておりますが、その基本理念は健康社会の建設です。クロレラなど微細藻類の研究にも、私は永松先生の指導のもとで25年間の歳月をかけました。『ドナリエラ』は、ワイツマン研究所がはや数十年も取り組んできた微細藻類です。

日健総本社の製品は、長い研究の積み重ねと実績に裏づけされております。社会に役立つこと、そのひとつに絞って研究が続けられているのです。私が微細藻類の一種であるクロレラを知ったのは、永松先生のおかげだったのですが、それをやっと製品化して、『クロスタニン』が誕生したわけです。これができるときは、涙が出るほどうれしかったですね、神に祈りたい気持ちでした。両親に感謝しました。」

できたばかりの製品の見本を持って、臥せていた永松昇のベットへ駆けつけた。「先生、やっとなり完成しました。」とみせると、恩師の永松は自分のことのように喜んでくれた。

師の永松昇は病床から、田中の前途を祝い励ましてくれた。

「クロスタニン」は、クロレラの細胞壁に含まれる生理活性多糖体に加えて、シイタケから抽出したエリタデニンや大豆レシチン、ビタミンEなど十数種類の植物栄養素を配合した複合食品。日本はもちろん、フランス、ドイツ、韓国、台湾など十カ国の製造特許を取得した国際ブランドだ。

ところで、その商品名には面白い由来がある。「『クロスタニン』の名前の由来は・・・」と田中が語ってくれる。

「苦労した人間には人に対する思いやりがあり、必ず世のため、人のために尽くそうという気持ちがあります。それで苦労した人間の名前をつけようと思って、苦労した人＝クロスタニン＝クロスタニンになったわけです。」もっとも最初は、クロレラを利用するし、ニンニクも使うし、これを食べればスタミナもつくので、クロニンにしようと考えた。

クロスタニン（苦労をした人）では舌をかみそうだし、クロシタのシタをスタに変えて、クロスタニンに決定しました。クロスタニンのほうがいいやすく、語呂もいい。本当ならクロスタニンなのです。」

いかにも苦労人・田中美穂らしい。永松は既述の通り、昭和50年8月18日に逝去したが、田中は包装も真新しいクロスタニンを霊前に供えて誓った。

「今日までいろいろと勉強させてもらいました。人生50年といますが、私もすでに50歳です。しかし寿命がつきるまで、あと30年は生きられるでしょう。それまでにできるかどうかわかりませんが、このクロスタニンを基礎にして、先生の100年構想実現のために全力を尽くします。どうぞ、これからもお守りください。」この霊前での誓いから田中は、日健総本社と共に歩いている。「クロスタニン」は、田中の苦労の結晶である。その結晶をつくり上げるのに、どれほどの量の汗が流れたか計り知れない。

イスラエルの赤い宝石「ドナリエラ」愛の一粒運動実施中！！

(株)日健総本社 兵庫特約店

(有)クロスタニンひまわり

☎ 0120-42-8198